



## 飯田 貴之

令和4年箱根駅伝を見事大会新記録で総合優勝した青山学院大学陸上競技部。主将としてチームをまとめた飯田貴之さんにお話を伺いました。

中学生の時によく走った景色の中で

## 悔しさから生まれた「迷ったら攻めろ」で走りぬいた箱根駅伝

——箱根駅伝総合優勝おめでとうございます。主将として過ごした1年間を振り返って、いかがですか。

ありがとうございます。

主将として、最高学年としての1年間は、1年生から3年生までとは全く違いました。実は、主将になった当初はそんなにプレッシャーを感じていなかったんです。実際それまで3回箱根駅伝を走りましたけど、緊張していなかったです。青学という強いチームの主将になれるのは嬉しかったし、ワクワクしていました。

ただ、駅伝シーズンが始まって急に主将としてのプレッシャーが来ました。やけに緊張してしまっただけで、雲駅伝では試合前の自分のメンタル面に異変を感じましたし、全日本大学駅伝でもいろいろな事を考えてしまっただけで、結局負けちゃって。競技人生というか、人生で一番悔しかったです。

全日本の帰りの電車では、本当に悔しくて立ち直れないくらい落ち込んでしまっただけで、原晋監督が気を使ってくれてくれるほどでした。おなか減らないのにカツサンド勧めた時に監督から「俺の判断も悪かった。でも迷ったら攻めるしかないよな」って言葉を貰いました。

「迷ったら攻めろ」その日から、箱根駅伝は絶対に攻める、どんなレース展開でも守りに入らないって、そう思って練習をやってきました。監督から貰ったその言葉は大きいですね。座右の銘は全部「迷ったら攻めろ」と書いています。

最後（箱根駅伝）だけは、個人としても区間賞を取って、チームとしても総合優勝したいという気持ちが大きかったです。僕が大学に入ったタイミングから、他の大学も駅伝のレベルが上がってきていて、そんな中で今回優勝できたのは本当に嬉しいです。

——主将として特に頑張ったことはありますか。

陸上に時間をすごく費やしました。主将になったからこそ、部員に見られているって意識もあり、「チーム内で自分が一番陸上に時間をかけたんだ」って言えるくらい取り組みました。

あと、信頼される主将になるために、良い意味でプライドは捨てていました。4年生として後輩に負けられないってプライドはありましたけど、普段生活している上での目線は

# 大学4年間で箱根路を堪能しました

後輩に合わせさせていました。練習時に4年生としての厳しさは出していても、普段は気軽に話せる環境を意識していました。

——箱根駅伝はさまざまな区間を走りましたね。

箱根駅伝は、4年間全部違う区間を走りました。往路復路でも被っていません。そんな人は、なかなかないと思うので良い経験ですね。箱根路をおもいっきり堪能しました。

——監督について教えてください。

僕は監督とすぐ話をするんですけど、めちゃくちゃいじってくるんですよ。監督にチャラいと思われていて、1年目から「チャラ君」「チャラ君」って呼ばれていて、全然そんなことないのに……本当にやめてほしいと思っていました（笑）

監督は、いろいろな分野が詳しい所がすごいですね。考えるスケールが大きくて、自分の部だけを強くするとかマネジメントするとかだけじゃなくて、どうやったら陸上競技界がもっと盛り上がるのか考えているんですよ。「競技者がちゃんと陸上競技を続けていって、プロになつて、稼げる環境を作りたい」とよく言っています。

トレーニングのメソッドもかみ砕いて説明してくれます。メニューを

渡されてただやるんじゃないで、全部これは何のためにどういう部位を鍛えているかって、トレーナー含めて、理論的に教えてくれました。それが、強いチームの理由にもなっているとと思います。

——試合前のルーティンがありますか。

特定の食べ物を食べるとかはないですね。髭を剃ったり、ヘアアイロンを使ったりして身だしなみを整えて気合を入れています。テレビの映りを気にしているわけじゃないですよ。気にしていたらあんなにきつそうな顔していません（笑）。「せめ



▲箱根駅伝第4区を首位で走る飯田さん（本人提供）

てスタート前までは」って、楽しむ気持ちはいつもあります。

あとは、大会で遠征する時は、いつも寮を出る前に部屋はしっかりきれいにしています。

——来年の目標を教えてください。

来年は、ニューイヤーズに出たいですね。強いチームに入るのが、出場するのは難しいとは思いますが、環境が変わった瞬間はすごく頑張る性格なので、1年目は結構自信があります。

大学1年生の時の練習も、目標とする先輩がむしゃらについていけば良いって思っていたので一番やりやすかったです。上級生になると後輩に見られるので、「ちゃんと走らない」という気持ちがあり、やっ



▲東庄町のいちごをほおぼる

ぱり大変でしたね。社会人になったら、まずは強い先輩の背中を追いかけて頑張りたいと思います。

——東庄町について、エピソードがあれば教えてください。

僕、マジで東庄町が大好きなんですよ。

大学に行ったら余計好きになって。東京に染まっても魂だけはこっちにあるって思っています。大学のある都内の人混みが嫌で、落ち着かなくて。東庄町みたいな田舎って良いなって改めて4年間で思いました。

特に、4年生になってからは、そう強く思いましたね。何回も家に帰りたいと思いました。1回、本当に帰ろうとしたことがあって。練習が1日休みの日に、朝東庄に帰って、ちよつと家でゆっくりして寮に戻ろうかなって思ってたくらい。でも、1回帰っちゃうと、その後何回もやるなって思ってた……。そんなことを考